

令和4年度「学術変革領域研究（A）」新規採択研究領域
に係る研究概要・審査結果の所見

領域番号	22A101	領域略称名	子どもの貧困学
研究領域名	貧困学の確立：分断を超えて		
領域代表者名 (所属等)	阿部 彩 (東京都立大学・人文科学研究科・教授)		

(応募領域の研究概要)

本領域研究は、子どもの貧困を足掛けとして、日本における「貧困の研究」を学術領域として発展させ、日本の貧困政策のEBPMの要となる研究者集団を育成するものである。そのため、全国300以上の自治体が行っている子どもの貧困調査のデータを統合することにより、国際的にも貴重なデータベースを構築する。その構築段階から学際的に協議し共同利用することを通して、共通の言語で貧困を語るができる研究者コミュニティを形成し、日本の貧困研究を国際的にも最先端に飛躍させる。具体的には、貧困の地域分布と地域特性の貧困の関連、貧困と子どものアウトカムを結ぶ媒介メカニズムの解明、出現率の低い子どもの貧困実態、研究成果を実装する社会システムの構築に関する研究に取り組む。

(審査結果の所見)

日本における「貧困の研究」を一つの学術領域として発展させ、貧困政策のEBPMの要となる研究者集団を育成することを目的としている本研究領域は、今日の我が国の喫緊の課題に学術的にアプローチするものであり、社会への高い波及効果が期待される。全国自治体の調査データを統合したデータベースを構築して子どもの貧困研究の共通基盤として整備し、地域、ジェンダー、外国にルーツを持つ子ども、健康等の重要な観点から総合的に分析を行う本領域研究は、高い学術的意義を有し、海外の研究者にも有用な研究資源の共有を可能とするものである。総括班の役割は明確に設定され、研究方針の作成、計画研究と公募研究の連絡調整、評価及び成果の発信も綿密に計画されている。領域の運営に当たっては、多分野の共同研究にとどまることなく、各計画研究から導かれる個別の研究知見をどのように有機的に統合し、いかに新領域として学術の概念や体系を打ち立てるかという点について、「貧困」の意味付けの検討を含め、その道筋をより明確かつ実質的に提示することが求められる。また、各計画研究間に存在するこれまでの研究到達点や革新性の差異を補い、得られた知見を実装する具体的方策についてもさらに深めていくことが望まれる。